

最高裁判所判事の皆様

私は、再度遠い海のむこうから日本をおとずれ、夫に再会できました。うれしくもありますが、同時にとても悲しくやるせない気持ちでもあります。それは、もちろん、夫がなんの理由もなく、四つの壁に仕切られた狭い部屋に閉じこめられ、6年もの長い年月を過ごしてきているからです。その夫の苦しみを思うと、とてもあわれで心が痛みます。

また、一方、ゴビンダの故郷イラムでは、年老いたゴビンダの両親、また娘たちも、ゴビンダのことで、毎日とても苦しんでいます。9才と12才になる娘たちは、父親の愛情を受けたことがありません。また、父親が日本のどこに、どのような状態にいるのかさえ知りません。年老いた両親は、息子ゴビンダのことで心を痛み、最近は病気がちになっています。夫がいないため、娘たちはもちろん、両親の責任もすべて私の肩にかかっています。もし、ゴビンダがネパールにいれば、私はこれほど重い責任を負うことはなかったと思います。

私は、犯してもいない罪のために長い間勾留されている夫ゴビンダを解放し、ネパールにつれて帰りたいという私の望みがかなえられ、また、冤罪で勾留されている一人の人間を解放しようという支援の会の努力が実を結ぶよう、神様にお祈りいたしております。

最高裁判事の皆様がたにおきましては、夫、ゴビンダ・ブラサド・マイナリのためになにとぞ公正な裁判をお願いいたします。

2003年3月25日

ラダ・マイナリ